

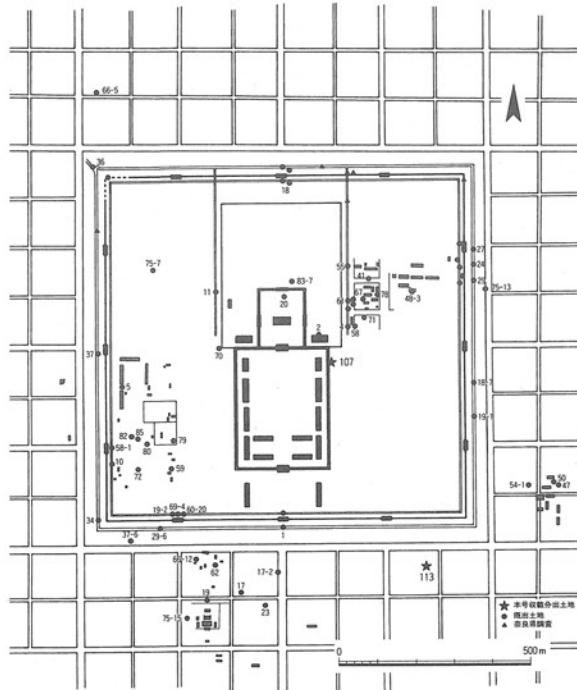
(2)は上端に穿孔が二つ認められる。左割れの木簡であるが、孔の場所は、一つがほぼ真ん中、もう一つは左端で半円となっている。下端が折れているが、意図的なものか。木簡の内容・用途は不明。

9 関係文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要二〇〇一』(二〇〇一年)

同『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』一五(二〇〇二年)

(市
大樹)



簡が出土したのは第一期に属する井戸 SE九一四九である。素掘の井戸で、直径約二m、遺構検出面から井戸底部までの深さは一・五m以上。調査地北部に東に開く「コ」字状に並び立つ小規模建物三棟によつて取り囲まれており、これらの建物に伴うものであろう。井戸埋土中より、飛鳥IV・Vに属する土師器、須恵器が出土した。木簡は堆積層下層の黒灰色粘土層から、木片、骨片、籠編物の断片などとともに三点が出土した（飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報）。一五では井戸 SE九一四七から木簡一点が出土したと報じているが、木簡ではないことが判明した。

奈良・藤原京跡左京六条一坊・七条一坊
あじわらきょう

所在地 奈良県橿原市高殿町

調査期間 第一三次調査 二〇〇一年(平13)一月~四月

奈良國立文化財研究所飛鳥藤原宮跡發掘調査部

貴荪の重負　那哉・裏落亦
調査担当者　代表 黒崎 直

遺跡の種類 遺跡の種類
都城・集落跡

遺跡及び木簡出土遺構の概要

近世の溜池である「高所寺池」

近世の溜池である【高所寺池】堤防改修工事に伴う事前調査である。藤原京の六条大路と東二坊坊間路の確認、左京七条一坊西北坪

奈良文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』一五
(一〇〇一年)
同『奈良文化財研究所紀要一〇〇一』(一〇〇一年)

(竹内
亮)

いざれも削屑の細片であり、釈読できない。

9

1001年

同『奈良文化財研究所紀要』(1001年)

検出した主な遺構は、藤

○ m^2 を発掘した。

原宮期の六条大路と東二坊
坊間路、左京七条二坊西北
坪内の東西溝・井戸・掘立



(桜井・吉野山)